

2016年度 春学期・第1クオーター・第2クオーターの授業評価を終えて

仏教学部長 林田 康順

2016年度 第1クオーター・第2クオーター・春学期の授業評価アンケート集計結果をご報告いたします。今年度から、クオーター制を採用する地域創生学部を新設したことから、授業評価も、第1クオーター・第2クオーター・春学期の授業評価アンケート集計結果として報告いたします。まずはご協力いただいた先生方に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

集計結果、及び、株式会社ディーシーアイによる「結果分析報告」によれば、以下のようにまとめられます。

Q1からQ13までの得点平均は、前々回・前回同様、すべての質問項目において4.00以上を示しており、概ねその評価は高止まりしているといえましょう。とりわけ、Q14「この授業のための課題、準備・復習に何時間取り組みましたか」の質問項目においては、2.78(15春)・2.83(15秋)から、2.88へと平均値が上昇し、授業間差異を表す標準偏差についても、0.654(15春)から0.611へと縮小しているのは、大いに評価されます。これまでの先生方の真摯な努力に深く感謝申し上げる次第です。もちろん、学習時間の平均は、「31分以上60分未満」に相当する3.0に未だ届かない段階に留まり、十分な学習時間が投じられているとは言えない状態が続いている。学生による学習時間の増加に向け、先生方のさらなる方策に期待するところです。

一方、全体にわたって、若干ですが、その得点平均は低下傾向にあり、標準偏差は拡大傾向にあります。特にQ11「私は、この授業を受けてこの科目や関連分野が好きになった」の得点平均が4.14(15春)・4.15(15秋)から4.09に低下しただけでなく、標準偏差も0.446(15春)から0.488へ拡大してしまったことは実に残念なことです。一々の先生方による各授業に向けた取り組み姿勢の見直しはもちろんですが、全体的なカリキュラム編成や不本意な履修状況の拡大等とも関連する可能性が考えられます。今後の課題となることでしょう。

なお、今回から、横軸に{Q7 授業に臨む姿勢×Q8 質問・調査努力}の相乗平均を、縦軸にQ14平均学習時間を、それぞれ設定したグラフを提示し、各授業の位置を確認できるようになりました。このグラフは、それぞれの数値の中央値を表す太線によって第一象限から第四象限に分けられ、象限毎に今後の課題を含めた評価が「結果分析報告」において詳説されています。先生方におかれでは、ご自分の授業の位置をご確認いただけなく、「結果分析報告」もご一読いただき、今後より良い授業の実施に向け、大いに参考にしていただきたいと思います。

合掌